

教育委員会だより

市町村交流事業 市浦小学校5年生が上ノ国町に来町

友好市町村交流事業として毎年行われている五所川原市・市浦小学校との交流が9月26日、27日に実施されました。

上ノ国町に到着後、文珠で昼食をとり午後から重要文化財である旧笹浪家住宅、国指定史跡勝山館跡を見学しました。旧笹浪家住宅ではガイドから当時の主人と使用人の暮らしや家の歴史の説明を受けました。また、勝山館跡では侵入者に備えた見張り場所や空堀のこと、和人とアイヌが一緒に暮らしていたことなどの説明を受け興味深く耳を傾けていました。

続いて農業指導センターの見学では上ノ国町の農業について農林課職員が説明したあと、キヌサヤエンドウ、立茎アスパラガスの園場を見学しました。児童らはアスパラガスの生育状況を見るのが初めてのよう

珍しそうに観察し、色々な質問をしていました。



夷王山頂上で記念撮影

その後、上ノ国小学校で町内小学校5年生との交流会を行いました。上ノ国町の5年生が市浦を訪問したのは6月のことです。今回の交流事業で最も楽しんでいたのはこの交流会なのですが、久しぶりの顔合わせにお互い照れくさいようで最初は思うように話すことができない様子でした。それでも交流ゲームや記念品作りを行ううちに徐々に打ち解け、夕食のときにはすっかり仲良くなつて一緒

にご飯を食べていました。夕食のカレーライスなどは町内小学校5年生の保護者が作ってくれたものです。みんなおかわりをしていました。

2日目の最終日は湯ノ岱温泉を出発して栽培漁業センターでアワビやナマコの生態について水産商工課職員に説明をして頂きました。アワビ、ナマコの稚貝も見学しましたが、普段見る機会がないので児童たちは身を乗り出して観察をしていました。

市浦小学校の児童は2日間通じて積極的に質問をしたりメモをよくとるなどその姿にとっても感心させられました。2日間の日程でしたが大変お疲れさまでした。



みんなて記念品づくり

檜山管内教育委員会研修会 上ノ国町で開催

10月4、5日にジョイじよぐらで檜山管内教育委員会研修会が行われました。

1日目には講演が2本行われ、1本目は「檜山地方のアイヌ語地名」と題して上ノ国町教育委員会史料調査員 渡部孝之氏が講演しました。

北海道の地名は音読みのものが多いですがそれはほとんどがアイヌ民族がつけた地名で後からその発音に漢字を当てはめたためです。檜山各地の地名について調べ、まとめた講演は檜山管内に住む教育委員の方には大変好評でした。

2本目は上ノ国町内で絵本の読み聞かせ活動をしているサークル『もこもこ』による「もこもこの活動と読み聞かせ」と題する講演でした。日頃の活動紹介に加え実際の読み聞かせも披露してくれました。絵本や物語の世界をしっかりと押さえ、聞き手に伝えるワザはなんとも心地よく、参加者の教育委員の皆さんの心にしみていくようでした。

2日目には町内視察として国指定史跡勝山館跡、重要文化財旧笹浪家住宅や上ノ国寺を見学しました。上ノ国町の文化財は檜山管内でも歴史が深く価値のあるものです。教育委員の皆さんは大変興味を示し見学をしていました。研修会に出席した委員からは「内容の濃い研修だった」「勝山館跡は立派な文化財施設で驚いた」などの感想を頂きました。



アイヌ語地名の講演



旧笹浪家住宅も見学